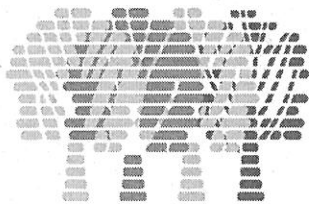


# 令和 3 年度要覧



埼玉県立

歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



## 設置の目的・事業

埼玉県立歴史と民俗の博物館設置の目的は、資料の収集、保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図ることにより、教育や学術、文化の発展に寄与することにある。

その目的を達成するために、次の事業を行っている。

- 1 郷土埼玉の文化を総合的に捉え、その変遷と発展を知るための歴史及び民俗資料等について調査研究し、収集・保管し、展示する。
- 2 資料を適正に管理するとともに、文化財保存機関としての事業を行う。
- 3 資料の利用に関する必要な解説、案内、指導、助言等を行う。
- 4 資料に関する講演会、講習会、実演会、研究会等を主催し、開催を援助する。
- 5 資料に関する案内書、解説書、図録、調査報告書等を刊行し、頒布する。
- 6 他の博物館、学校その他の関係機関等と協力し、その活動を援助する。
- 7 その他当館の目的を達成するために必要な事業を行う。

## もくじ

埼玉県立歴史と民俗の博物館の使命	1
沿革	2
令和3年度事業計画	3
令和2年度事業報告	13
令和2年度利用者数	24
展示概要等	25
組織及び職員構成	28
施設設備	30
資料	33
利用案内	36





# 埼玉県立歴史と民俗の博物館の使命

## 1 本館の使命

本館は、埼玉の歴史と民俗に関する資料を収集・保管し、総合的に調査研究することにより、埼玉の地域的特性を明らかにし、その成果を展示公開・情報発信するとともに、県民の学習活動や交流の場となることにより、県民各層の心豊かなくらしと新たな文化の創造に寄与する博物館です。

私たちは、博物館に携わるすべてのマンパワーと資源を駆使して、埼玉の魅力をアピールするとともに、県民と協働した生涯学習を推進する中核的生涯学習施設としての役割を果たします。

- 1 県民共有の文化遺産である埼玉の歴史・民俗・美術工芸に関する資料を収集・保管・活用するとともに、調査研究して、次世代に継承します。
- 2 埼玉の歴史と民俗に関する地域的特性を明らかにした調査研究の成果を展示公開するとともに、国内外に情報発信します。
- 3 地域や学校と連携することにより、県民の参画と交流による学習の場として、埼玉の歴史や民俗に関する生涯学習や学校教育を支援します。
- 4 県内の博物館ネットワークの中核的施設として、市町村の歴史・民俗系の博物館を中心に、その事業や活動を支援します。
- 5 ボランティアやミュージアムクルーの育成・活用等を積極的に進めるとともに、様々な事業において、学校や地域社会の幅広い人材と広く連携・協働し、開かれた博物館活動を展開します。
- 6 埼玉の歴史や民俗に関する資料を核にして県民が集い、交流し、活動するやすらぎと潤いのある快適空間を提供します。

### 【 本館の経緯 】

本館は、旧県立博物館と旧県立民俗文化センターを統合し、平成18年4月1日に誕生した歴史、民俗、美術工芸の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である。

母体となった2館のうち、旧県立博物館は、昭和46年11月、明治4年の埼玉県誕生から100年を記念して、人文系総合博物館として開館した。その後、昭和57年11月の県立近代美術館の開館を機に、展示室を全面的に改装して歴史系博物館に衣替えし、昭和58年11月に新装開館した。

一方、昭和55年11月に開所した旧県立民俗文化センターは、民俗芸能及び民俗工芸を調査研究の対象とする施設として全国に先駆けた存在であった。

その後、平成17年2月に策定された「県立博物館施設再編整備計画」により両館が統合され、収蔵資料はもとより長年培ってきた調査研究の成果を結集して、新たに「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として発足した。

## 沿革

昭和

- 34年12月 埼玉県立博物館の設置についての請願を  
県議会において採択
- 43年8月 埼玉県立博物館建設基本構想を決定
- 11月 設計を(株)前川國男建築設計事務所へ委託
- 44年9月 博物館建設工事費として13億円を計上
- 10月 県立文化会館を廃止し、新たに県立博物館  
準備事務所を県立浦和図書館内に設置
- 46年11月 埼玉県立博物館条例を制定、開館
- 47年9月 「太平記絵巻(巻第一)」を購入
- 12月 博物館法第11条に基づく登録博物館となる
- 51年1月 文化財保護法第48条に基づく国宝・重要文  
化財の勧告・承認出品の展示館となる
- 52年4月 5月5日(祝)を開館日とする
- 55年4月 4月29日(祝)、5月3日(祝)を開館日  
とする
- 11月 埼玉県立民俗文化センター開所
- 58年11月 埼玉県立博物館新装開館、開館記念特別展  
「武蔵武士」開催
- 12月 国宝「太刀」(銘備前国長船住左兵衛尉景光)  
を購入
- 60年4月 エントランスホール、館庭等を無料開放  
元日を除く国民の祝日を開館日とする

平成

- 3年10月 開館20周年記念展「さいたまの名宝」  
開催、記念図録出版
- 5年4月 国宝「短刀」(銘備州長船住景光)を購入
- 6年3月 障害者対応型エレベータ設置
- 6年4月 高齢者(65歳以上)及び障害者等の入館料  
無料化  
幼児コーナー及び休憩コーナーを開設
- 7年4月 義務教育終了前の者の入館料無料化
- 10月 「太平記絵巻(巻第七)」を購入
- 8年4月 「太平記絵巻(巻第二)」を購入

平成

- 10年6月 インターネットのホームページ開設
  - 11月 当館が「公共建築百選」に選定
  - 12年5月 拡大常設展「博物館の広場」開催
  - 13年11月 「太平記絵巻(巻第十)」を購入
  - 14年5月 2002 FIFA ワールドカップ™ 記念特別展  
「蹴鞠-KEMARI-」開催
  - 7月 「太平記絵巻(巻第六)」を購入
  - 11月 当館が第4回日本建築家協会25年賞受賞
  - 16年10月 清子内親王殿下 お成り
  - 18年4月 県立博物館施設再編整備計画により、埼玉  
県立博物館と埼玉県立民俗文化センターを  
統合、埼玉県立歴史と民俗の博物館設置
  - 19年3月 関東地区博物館協会初の共同企画展「祈り  
の風景-埼玉の絵馬-」開催
  - 4月 体験学習施設「ゆめ・体験ひろば」を開設
  - 20年3月 大規模改修及び耐震補強工事第Ⅰ期完了
  - 21年10月 交流企画展「出張博物館 in 深谷」開催  
「まなびピア埼玉2009」出展
  - 22年2月 大規模改修工事第Ⅱ期完了
  - 23年3月 大規模改修工事第Ⅲ期完了  
階段昇降機設置
  - 24年9月 天皇皇后両陛下 行幸啓
  - 25年6月 秋篠宮文仁親王殿下 お成り
  - 7月 65歳以上の観覧料減免措置廃止
  - 26年8月 入館者累計500万人達成
  - 28年2月 特別展示室非構造部材耐震対策工事完了
  - 29年3月 南通用門の開放及びゆめ・体験ひろばに自  
動ドアを設置
  - 31年2月 Saitama Free Wi-Fi設置、運用開始
- 令和
- 2年2月 感染症感染拡大防止のため臨時休館(～5月)
  - 12月 感染症感染拡大防止のため臨時休館(～3月)
  - 3年3月 NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄  
一のまなざし～」開催

# 令和3年度 事業計画

## ◆事業運営の基本方針

### 1 事業運営の方針

平成18年4月、当館は、歴史、民俗、美術工芸の分野を広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館である「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として再出発して以来、その使命を果たすべく取り組んできた。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に配慮しながら、博物館事業の基本となる埼玉の歴史と民俗に関する資料を適切に収集・保存・修復し、総合的に調査研究することにより、埼玉らしさを明らかにする。そしてその成果を展示公開するなど最大限に活用を図り、国内外へ情報発信に努める。学習支援事業を推進し、学校や地域等との連携を深め、県民利用の一層の促進を図る。地域文化及び学術研究施設として、県内の博物館施設のセンター的役割を果たすべく努力する。

さらに、少子高齢化やグローバル化の進展にともない、県民を中心に世界中の人々が誰でも参加できる親しみやすい事業運営に努めるとともに、多様な「人材」の育成並びに生涯にわたる学びを支援できるよう工夫し、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえながら、世代を超えて、すべての人をやさしく迎え、すべての人が楽しめる博物館を目指す。

#### 【主な施策】

- (1) 調査研究に基づく、資料の収集・保管と展示の充実
- (2) 常設展及び特別展・企画展に関わる調査と資料収集、展示の充実
- (3) 県民の学習支援の推進と講座・講習会等の充実
- (4) 学習成果を生かす体験学習・展示解説ボランティア活動の促進
- (5) 高度情報化に対応した広聴・広報活動の充実
- (6) 学校教育・社会教育・地域社会・民間団体等との連携

### 2 事業運営の重点的な取組

- (1) 総合的有害生物管理と資料総点検作業の計画的な実施
- (2) 埼玉の潜在的な文化遺産を活用するための組織的、継続的な調査研究の実施
- (3) 他の博物館・美術館や民間団体との連携による「埼玉ならではの価値」を発信する魅力的な特別展・企画展の開催
- (4) 令和3年度に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にあわせた事業の実施
- (5) 埼玉県150周年、開館50周年の記念事業の実施
- (6) 「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた学校教育との連携の強化
- (7) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会等関係機関とのネットワーク機能の充実
- (8) 博物館ホームページの充実やSNSの活用、関係機関等との連携による戦略的広報の推進
- (9) 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策の徹底

## ◆主要事業計画（令和3年7月1日現在）

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、臨時休館の実施や事業の縮小など、今後の感染状況によっては変更になる場合がある。

### 1 調査研究事業

- (1) 「埼玉の地方文化とその特性－地域文化圏に関する調査研究－」を館職員の調査研究共通テーマとし、その成果を『紀要』に掲載
- (2) 『紀要』第16号の編集、刊行
- (3) 文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査研究事業「巡り・廻りの民俗行事」（第Ⅱ期）の実施
- (4) 文化遺産調査活用事業 歴史遺産調査研究事業「『新編武蔵風土記稿』総合調査」の実施
- (5) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究
- (6) 県立博物館8館合同ミュージアムフォーラム 学芸員合同研究発表会への参加

### 2 資料調査事業

- (1) 資料の収集  
埼玉県歴史・文化・伝統を象徴するコレクションの形成・充実に重点を置いた購入・受贈を図り、さらに無形民俗文化財の映像等による記録保存にも努める。
- (2) 資料の整理・保存・管理  
収集した資料を整理し、保存管理に万全を期するため、毎月資料総点検を実施するほか、劣化の進んだ資料については修理を実施する。  
さらに総合的有害生物管理（Integrated Pest Management 略してIPM）を実施して、虫菌害予防のための資料保存・管理及び対策を図る。  
「大般若経波羅蜜多經 卷第九十九」の修理を行う。
- (3) 館施設の防虫消毒  
第1期 6月8日(火)～6月9日(水) 休館期間 6月7日(月)～6月14日(月)  
第2期 9月13日(月)～9月14日(火) 休館期間 9月13日(月)～9月14日(火)
- (4) 減圧滅菌装置による初発燻蒸  
新規受入資料及び外部借用資料等の減圧滅菌装置による燻蒸殺虫を適宜行い、有害虫及び有害菌の防除に万全を期する。
- (5) 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設等にある当館所蔵の民俗資料を適切に管理する。

### 3 常設展示事業

メインテーマ：「埼玉における人々のくらしと文化」

#### (1) 展示替え

##### ① 美術展示（第4室）

「景色を愛でる」	5月18日(火)～	6月6日(日)
「祈りのかたち」	6月15日(火)～	9月26日(日)
「三十六歌仙額」	9月28日(火)～	12月19日(日)
「近世絵画の世界」	12月21日(火)～	令和4年3月27日(日)

② 歴史特集展示

第9室「富士への祈願～富士講『丸宝講』の世界～」	3月23日(火)～	6月6日(日)
第5室「中世の梵音具」	6月15日(火)～	9月26日(日)
第9室「渋沢栄一」	6月15日(火)～	12月19日(日)
第5,7室「埼玉の名刹 甘棠院」	9月28日(火)～	12月19日(日)
第9室「埼玉遊覧」	12月21日(火)～	

令和4年3月27日(日)

第3室「国宝 太刀・短刀の公開」	令和4年1月29日(土)～	3月6日(日)
------------------	---------------	---------

③ 民俗コラム展示 (第10室)

「北武蔵の農具～麦を作る～」	3月23日(火)～	6月6日(日)
「うちわの彩り」	6月15日(火)～	9月26日(日)
「天然塗料 柿渋の役目」	9月28日(火)～	12月19日(日)
「寅がいっぱい」	12月21日(火)～	

令和4年2月20日(日)

「お節句祝い」	令和4年3月1日(火)～	6月5日(日)
---------	--------------	---------

※民俗展示室は展示替えのため令和4年2月21日(月)～2月28日(月)は休室

④ 季節展示 (季節展示室)

特別展・企画展の関連展示や時宜に合ったテーマの小展示などを実施する。

⑤ 定例展示替え

毎月最終月曜日を目安に展示替えを実施。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝 法華経一品経(ときがわ町・慈光寺)	8月31日(火)～	9月26日(日)	第4展示室
国宝 太刀	令和4年1月29日(土)～	3月6日(日)	第3展示室
国宝 短刀	令和4年1月29日(土)～	3月6日(日)	第3展示室
重文 熊野神社境内古墳出土品(桶川市・熊野神社)	通年		第2展示室
重文 大般若経(日高市・高麗神社)	6月15日(火)～	8月29日(日)	第3展示室
重文 銅造阿弥陀如来立像(神川町・光明寺)	6月15日(火)～	8月29日(日)	第4展示室
重文 雲版(飯能市・長光寺)	6月15日(火)～	9月26日(日)	第5展示室
重文 絹本著色高野明神像・丹生明神像(越生町・法恩寺)	7月6日(火)～	8月1日(日)	第4展示室
重文 絹本著色釈迦三尊及阿難迦葉像(越生町・法恩寺)	8月3日(火)～	8月29日(日)	第4展示室
重文 宋版一切経(川越市・喜多院)	9月28日(火)～	10月24日(日)	第7展示室
重文 三十六歌仙額(川越市・仙波東照宮)	9月28日(火)～	12月19日(日)	第4展示室

(3) 重要有形民俗文化財の展示

重民 北武蔵の農具	3月23日(火)～	6月6日(日)	第10展示室
-----------	-----------	---------	--------

#### 4 特別展・企画展示事業

##### (1) 特別展

名称・開催期間	展示内容
<p>NHK大河ドラマ特別展</p> <p>「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」</p> <p>令和3年3月20日(土・祝)～ 23日(火)～5月16日(日)</p> <p>※ NHKさいたま放送局と共催 ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により開始日変更</p>	<p>経済人として高く評価されている渋沢栄一は、教育や福祉、国際交流等の分野でも活躍し、日本の近代化に大きな役割を果たした。大河ドラマの主人公であり、新一万円札の肖像になるなど注目を集めている郷土の偉人渋沢栄一を多角的に紹介する。</p> <p>開催日数：52日50日(令和3年度41日) 展示資料：約200点</p> <p>[関連事業] ・記念講演会 ・見どころ解説</p>
<p>特別展</p> <p>「埼玉考古50選」</p> <p>令和3年10月9日(土) ～11月23日(火・祝)</p>	<p>埼玉県では、約3万5000年前の旧石器時代から近代に至る、数多くの遺跡がこれまでに調査されてきた。そこで出土した、埼玉の歴史を考える上で欠くことのできない考古資料を厳選して紹介する。また、現在は県外の博物館等に所在している資料の一部も「里帰り」する。</p> <p>開催日数：46日 展示資料：約300点</p> <p>[関連事業] ・記念講演会 ・見どころ解説</p>

##### (2) 企画展

名称・開催期間	展示内容
<p>企画展</p> <p>「太平記絵巻一描かれた武士の世界」</p> <p>令和3年7月17日(土) ～9月5日(日)</p>	<p>太平記絵巻は、長大な軍記物語『太平記』を絵巻にした現存する唯一の作品である。全12巻の絵巻のうち、当館が所蔵する巻第一、二、六、七、十巻を17年ぶりに一挙に展示・公開する。</p> <p>開催日数：40日 展示資料：約60点</p> <p>[関連事業] ・連続講座 ・体験講座</p>



<p>企画展</p> <p>「お茶を楽しむ」</p> <p>令和4年1月2日（日） ～2月13日（日）</p>	<p>私たちにとって馴染み深い飲み物 茶。埼玉県では「狭山茶」が有名だが、かつては畑の畔に茶の木が植えられ、多くの地域で、自家用のお茶が生産されていた。埼玉県の茶産地としての歴史を振り返るとともに、お茶農家の現在の取組みなどを紹介する。</p> <p>開催日数：39日 展示資料：約100点</p> <p>[関連事業] ・記念講演会 ・見どころ解説</p>
<p>企画展</p> <p>「埼玉武術英名録」</p> <p>令和4年3月19日（土） ～5月8日（日）</p>	<p>武術・武道は、日本の運動文化を体現する無形の文化遺産である。江戸時代中期以降、埼玉県域でも本格的な武術指導を行う諸流派が登場し、多くの人々が入門した。剣術・柔術を中心とする、埼玉県ゆかりの武術諸流派や歴史上に名をのこした武芸者などを紹介する。</p> <p>開催日数：46日 展示資料：約100点</p> <p>[関連事業] ・記念講演会 ・演武</p>
<p>共催展</p> <p>「昌国寺」</p> <p>令和4年3月19日（土） ～5月8日（日）</p> <p>※会場：鉢形城歴史館</p>	<p>当館は、古くから昌国寺（寄居町赤浜）が所蔵する資料を受託しており、常設展示でその一部を活用してきたが、昌国寺そのものについて踏み込んで紹介する機会がなかった。この展覧会では、寄居町鉢形城歴史館と共催し、地元の寄居町で旗本水野家ゆかりの昌国寺の什物や古文書を一堂に公開する。</p> <p>開催日数：45日 展示資料：約30点</p> <p>[関連事業] ・記念講演会 ・展示解説</p>

- (3) 令和4年度開催予定特別展・企画展の準備  
令和4年度に開催する予定の展覧会の準備を進める。

## 5 生涯学習支援事業

### (1) 講座・講習会等の開催

#### ① 歴史民俗講座（5回）

期日：5月22日（土）（中止）、7月17日（土）、9月11日（土）、12月18日（土）  
令和4年2月5日（土）各日とも14:00～15:30

対象：一般

定員：各81名（予定）

#### ② 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」

期日：6月20日（日）（中止）、6月27日（日）、7月4日（日）、7月11日（日）

対象：一般

#### ③ 民俗工芸実演

・桶作り

期日：7月24日（土）

・漆刷毛作り

期日：10月23日（土）

### (2) 実習・研修等の受入れ

#### ① 博物館学芸員実習

期間：6月17日（木）～25日（金）及びレポート等の課題提出

定員：20名

#### ② 博物館見学実習

期間：通年（随時受入れ）

#### ③ 高校生インターンシップ

期間：8月～令和4年2月 2～3日間

#### ④ 教員研修等の受入れ

#### ⑤ 総合的な学習・インターンシップの受入

期間：通年（随時受入れ）

### (3) 学校団体の受入れ

#### ① 学校連携（来館対応）

#### ② 学校連携（出前授業）

期間：通年（随時受入れ）

対象：小・中・高等学校、特別支援学校

#### ③ 「主体的・対話的で深い学び」の博物館利用の検討

### (4) デリバリー事業等の実施

#### ① 県政出前講座

#### ② 市町村等連携

### (5) ボランティアの受入れ

#### ① 体験学習ボランティアの育成と運営

#### ② 展示解説ボランティアの育成と運営

ボランティアによる常設展の展示解説を、開館期間中、原則毎日行う。

## 6 ゆめ・体験ひろば事業

### (1) 「ものづくり工房」通常体験メニュー

期日：通年

対象：児童・生徒・一般（未就学児は保護者同伴）

定員：メニューにより定員あり（事前予約受付）

※感染症収束状況により販売・休止のメニューを再開

#### ① 藍染めハンカチ 事前予約受付

#### ② 江戸組紐ストラップ・プレスレット 事前予約受付

#### ③ 絵馬 販売のみ



- |   |            |        |
|---|------------|--------|
| ④ | 歴史ぬりえ      | 販売のみ   |
| ⑤ | 絵巻物        | 販売のみ   |
| ⑥ | まが玉        | 事前予約受付 |
| ⑦ | 浮世絵スリスリマシン | 当面休止   |
| ⑧ | 季節のミニアート   | 販売のみ   |
| ⑨ | 編布コースター    | 当面休止   |
| ⑩ | コバトンベーゴマ   | 販売のみ   |

(2)「ものづくり工房」特別体験メニュー

- ① 藍の絞り染め風呂敷作り  
 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止  
 期日：5月26日(水)  
 対象：大人  
 定員：6名
- ② 藍の型染めミニトートバッグ作り  
 期日：6月23日(水)、24日(木)  
 対象：大人  
 定員：各日6名
- ③ 木版浮世絵を摺る  
 期日：7月2日(金)、12月11日(土)  
 対象：大人  
 定員：各日6名(各日2回実施・定員各回3名)
- ④ 夏休み子ども組紐教室  
 期日：7月29日(木)、30日(金)  
 対象：小学3年～中学生  
 定員：各日4人
- ⑤ 御岳組のマスク紐作り  
 期日：10月15日(金)  
 対象：大人  
 定員：10名
- ⑥ ミニ銅鏡作り  
 期日：令和4年1月22日(土)  
 対象：小学生以上  
 定員：8名(2回実施・定員各回4人)
- ⑦ 金剛組の帯締め作り  
 期日：令和4年2月18日(金)、25日(金)(2回連続)  
 対象：大人  
 定員：10名
- ⑧ 型付け藍染め  
 期日：令和4年2月26日(土)  
 対象：大人  
 定員：6名

(3)「昭和の原っぱ」イベント

- 博物館春まつり～射的遊び  
 期日：令和4年3月19日(土)  
 対象：児童・生徒・一般

(4)その他特別体験事業

- ① 十二単・小桂と男子装束の着装体験  
 期日：9月25日(土)、11月13日(土)、令和4年1月15日(土)、3月12日(土)  
 対象：十二単は大人、小桂は小学生以上、男子装束は高校生以上  
 定員：各日6名

- ② 火おこし体験教室  
期日：11月6日（土）、12月4日（土）、令和4年2月19日（土）  
対象：小学生以上  
定員：各日8名（各日4回実施・定員各回2人）
- ③ お囃子体験教室「さんてこ囃子」  
期日：10月17日（日）  
対象：小学生以上（未就学児は保護者同伴）  
定員：10名
- ④ ベーゴマ教室  
期日：10月24日（日）  
対象：小学生以上  
定員：12名
- ⑤ 甲冑の着装体験  
期日：11月27日（土）、令和4年2月12日（土）  
対象：小学生以上  
定員：各日12名
- (5) 博物館クルーの育成・活用  
「ゆめ・体験ひろば」等の体験メニューや博物館の事業の運営に協力するための高度な技術を持つ人々を育成し、活用する。
- (6) キッズクルーの募集  
将来の埼玉文化の継承者や良き博物館利用者の育成及びゆめ・体験ひろば等における子供対象事業への参加促進を図るため、「キッズクルー」の募集を行う。  
対象：県内在住の小学生中心
- (7) 高齢者・障害者等の利用促進に係る検討

## 7 その他の主催事業

- (1) 「SAITAMA から世界に届け！応援絵馬」  
期日：7月22日（木・祝）～9月5日（日）  
対象：一般
- (2) 弥生時代復元住居見学会  
期日：11月14日（日・県民の日）  
対象：一般
- (3) 県民の日イベント  
屋台囃子の演奏ほか  
期日：11月14日（日・県民の日）  
対象：児童・生徒・一般
- (4) 正月臨時開館関連事業
  - ① 正月イベント「博物館でお正月」福笑い、投扇興、かるた遊びほか  
期日：令和4年1月2日（日）、3日（月）  
対象：児童・生徒・一般
  - ② 正月イベント「はくぶつかん七福神めぐり」（常設展）  
期日：令和4年1月2日（日）～7日（金）  
対象：一般
- (5) 博物館裏方探検隊（中止）  
普段見ることのできない博物館のバックヤードを学芸員が案内する。  
原則毎週土曜日の午後実施 対象：一般 定員：なし  
※感染症収束状況により再開

## 8 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会の運営等（会長・事務局）
  - ① 総会・理事会・研究会・講習会・見学会・研修会等の開催
  - ② ホームページの管理・運営
- (2) 関東地区博物館協会の運営（埼玉県代表幹事館）
- (3) 全国歴史民俗系博物館協議会の運営（関東ブロック幹事館）
- (4) 日本博物館協会の活動（参与）
- (5) 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会との連携・交流
- (6) 県政出前講座の受け入れ
- (7) 埼玉県文化財保護協会等の県内文化財関係団体との共催による講習会・研修会の開催
- (8) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会の運営（会長・事務局）
- (9) 埼玉大学と連携し、県民向け連続講座「ミュージアムカレッジ」を開催
- (10) 首都圏の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス2021」への参加
- (11) 埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会への参加
- (12) その他関係団体・民間企業との連携

## 9 広聴広報

- (1) 広聴
  - ① 講座・講演会・特別展等アンケート計画の策定と実施
  - ② 入館者からの意見聴取計画の策定と実施
- (2) 広報
  - ① イベントガイド・博物館だより・ポスターほか
  - ② 彩の国だより・県教委だよりほか
  - ③ 新聞・雑誌・テレビ・ラジオほか
  - ④ インターネット・SNSによる情報発信
  - ⑤ 当館ホームページの管理・運営
  - ⑥ イベントブース出展、自治会回覧等による地域広報
- (3) レファレンスサービス

## 10 各種印刷物の刊行

- (1) 『紀要』第16号
- (2) 展示図録等  
特別展「埼玉考古50選」
- (3) その他
  - ① 令和4年度イベントガイド
  - ② 令和3年度要覧
  - ③ 博物館だよりweb版（年間2回発行）
  - ④ 授業に役立つ博物館活用ガイド（令和4年度版）
  - ⑤ 無形民俗文化財調査研究事業 玉敷神社のお獅子さま調査概報Ⅰ

## 11 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期する。

## 12 国際的なイベントに向けた取り組み

令和3年7月開催予定の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にあわせ、来日する外国人に向けて、これまでに整備したおもてなし環境の活用を図る

- ① 国内外への情報発信体制の強化

- ② 多言語の館内サインなど、外国人に対する受入設備を活用
- ③ 利用者の利便性を考慮した電子決済システムの推進

### 1 3 埼玉県150周年、開館50周年記念事業の実施

埼玉県150周年、開館50周年を迎え、展覧会、イベントを実施する。

- ① NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」の開催
- ② 特別展「埼玉考古50選」の開催
- ③ 開館から50年の歩みを振り返るパネル展等イベントの実施

# 令和2年度 事業報告

## 1 調査研究事業

分野ごとの基礎的・分類的・形態学的調査研究、展示・教育・運営等博物館活動の諸分野に関する研究、資料の収集・保存に関する技術的研究など、博物館活動の基礎となる調査研究のほか、次の事業を行った。

- (1) 常設展示資料に関する調査研究
- (2) 『紀要』第15号の編集、刊行(600部)
- (3) 文化遺産調査活用事業 無形民俗文化財調査研究事業「巡り・廻りの民俗行事」「玉敷神社のお獅子さま」の実施
- (4) 文化遺産調査活用事業 歴史遺産調査研究事業「『新編武蔵風土記稿』総合調査」の実施
- (5) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究

## 2 資料の収集・保存・管理事業

常設展示や特別展示等の充実及び人文系総合博物館にふさわしい魅力あるコレクションを形成するため、資料収集基準及び資料評価会議の指導に基づき資料を収集した。

また、資料の虫病害対策や、保存環境の整備のため、定期清掃等の総合的有害生物管理(IPM)を実施した。

### (1) 資料の収集

新規受け入れ資料として5件13点を収集した。

#### ① 購入(5件13点)

- |                     |    |
|---------------------|----|
| ・川口市鳥瞰図(吉田初三郎画)     | 1点 |
| ・武州松山附近名所図絵(常光画)    | 1点 |
| ・田崎草雲画「紙本着色秋山見句」    | 1幅 |
| ・足軽胴(黒漆塗二枚仏胴 金箔押三引) | 1領 |
| ・絵はがき(埼玉県関係)        | 9点 |

#### ② 受贈(0件0点)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、資料の受け入れに必要な資料評価会議を開催することができないため、資料の受け入れを次年度へ延期した。

### (2) 資料の整理・保存・管理

#### ① 資料管理

- |              |  |
|--------------|--|
| ・IPM推進委員会の開催 | 4月8日(水)、3月24日(水)   |
| ・収蔵庫定期清掃     | 月2回(原則第2・4木曜日)   |
| ・有害生物生息状況調査  | 月1回(原則月末火曜日)   |
| ・収蔵庫ほか忌避剤散布  | 6月10日(水)～11日(木)<br>9月14日(月)～15日(火)                                       |
| ・搬入展示資料等の燻蒸  | 7月14日(火)～28日(火)<br>10月22日(木)～11月8日(日)<br>3月5日(金)～6日(土)<br>3月9日(火)～10日(水) |

#### ② 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設等に所在する当館所蔵の民俗資料の管理

- |             |     |
|-------------|-----|
| ・収蔵庫定期清掃    | 6回  |
| ・有害生物生息状況調査 | 月1回 |

(文化財収蔵施設については改修工事のため9月～2月は実施せず)

#### ③ 資料の修理

・「絹本着色ねずみ草子図屏風」 1 隻

(3) 資料の貸出、特別利用（フィルム等の貸出、資料の熟覧等）

- |        |                   |              |
|--------|-------------------|--------------|
| ① 貸出   | 東京国立博物館、さいたま文学館ほか | 8 件（ 32 点）   |
| ② 特別利用 | 朝日新聞出版、集英社ほか      | 101 件（304 点） |

### 3 常設展示事業

「埼玉における人々の暮らしと文化」をメインテーマに、総合的な視野で時代の推移が理解できる展示に努めた。また、調査や研究に基づく展示替えや特別公開などにより、展示内容の充実を図った。

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和2年2月29日（土）から5月24日（日）まで及び12月24日（木）から令和3年3月21日（日）まで臨時休館となったことから、当該期間については、公開を実施していない。また、例年7月1日から8月31日に行っている夏季の開館時間延長について、感染拡大防止のため令和2年度は実施していない。

(1) 展示替え

① 美術展示（第4室）

「女性と美術」	5月26日（火）	～	6月7日（日）
「みほとけの世界」	6月16日（火）	～	9月27日（日）
「歌仙絵の世界」	9月29日（火）	～	12月13日（日）
「わざの世界」	12月15日（火）	～	令和3年3月16日（火）-7日（日）

※3月9日（火）から3月17日（水）までは特別展「銘仙」の中から14点を緊急展示したが臨時休館となり未公開

※~~3月20日（土・祝）~~23日（火）から5月16日（日）までは特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」の会場の一部として使用

② 歴史特集展示（第9室） ★は第3室

「往来物・教科書」	5月26日（火）	～	7月26日（日）
「銀座復興絵巻」	7月28日（火）	～	8月30日（日）
「幕末風刺画」	9月1日（火）	～	12月13日（日）
「版木から読む『新編武蔵風土記稿』」	12月15日（火）	～	令和3年3月21日（日）
「富士への祈願～富士講「丸宝講」の世界～」	3月23日（火）	～	6月6日（日）

★「国宝 太刀・短刀の公開」令和3年1月30日（土）～3月7日（日） ※全期間休館

③ 民俗展示（第10室）

「はかる道具」	5月26日（火）	～	令和2年6月7日（日）
「和菓子づくりの世界」	6月18日（木）	～	10月18日（日）
「北武蔵の農具」	10月20日（火）	～	令和3年6月6日（日）

④ 季節展示（季節展示室）

特別展・企画展の関連展示や時宜に合ったテーマの小展示などを実施した。

「特集展示『特別展武蔵国の旗本』を振り返る」	7月18日（土）	～	9月6日（日）
「ミニ展示 疫病退散」	7月18日（土）	～	9月6日（日）
「鐺」	9月11日（金）	～	11月15日（日）

「特別展 銘仙」令和3年1月2日（土）～2月14日（日） ※全期間休館

「特別展 青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」3月20日（土・祝）～5月16日（日）

⑤ 定例展示替え

毎月最終月曜日を目安に展示替えを実施した。

(2) 国宝・重要文化財の公開

国宝 法華經一品經（ときがわ町・慈光寺）9月 1日(火)～ 9月27日(日) 第4展示室  
国宝 太刀 令和3年1月30日(土)～3月7日(日) 第3展示室 ※全期間休館  
国宝 短刀 令和3年1月30日(土)～3月7日(日) 第3展示室 ※全期間休館

・「刀剣乱舞—ONLINE—」コラボレーション企画

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止

コラボ期間 令和3年1月30日(土)～ 3月 7日(日)

「謙信景光 等身大パネル展示」

重文 大般若經（日高市・高麗神社） 5月26日(火)～6月 7日(日) 第3展示室

重文 絹本著色釈迦三尊及阿難迦葉像（越生町・法恩寺）

6月18日(木)～7月 5日(日) 第4展示室

重文 絹本著色高野明神像・丹生明神像（越生町・法恩寺）

7月 7日(火)～8月 7日(金) 第4展示室

重文 宋版一切經（川越市・喜多院）

7月28日(火)～9月27日(日) 第7展示室

重文 銅造阿弥陀如来立像（神川町・光明寺）

9月 1日(火)～10月25日(日) 第3展示室

重文 三十六歌仙額（川越市・仙波東照宮）

9月29日(火)～12月13日(日) 第4展示室

重文 雲版（飯能市・長光寺）

10月27日(火)～ 1月24日(日) 第3展示室

重文 紙本著色伝貞巖和尚像（久喜市・甘棠院）

令和3年1月 5日(火)～ 1月24日(日) 第5展示室 ※全期間休館

重文 熊野神社境内古墳出土品（桶川市・熊野神社）

通年

第2展示室

### (3) 重要有形民俗文化財の展示

北武蔵の農具

10月20日(火)～ 令和3年6月 6日(日) 第10展示室

## 4 特別展示・企画展示事業

当館の主催又は関係団体との共催により、特定のテーマに基づいて資料を収集・構成し、特色ある特別展・企画展を開催した。

### (1) 特別展「武蔵国の旗本」

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため全期間休館

期 日 令和2年3月20日(金・祝)～5月10日(日)

趣 旨 江戸時代、武蔵国には多くの旗本知行所が置かれていた。本展では、旗本の家や知行所内に開基・中興した菩提寺等に伝わる様々な歴史資料や美術品から、かつて埼玉を治めていたお殿様「旗本」の実態に迫った。

展示資料総数 299点

開館日数 0日(予定47日)

[関連事業] ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためすべて中止

・記念講演会Ⅰ 「旗本を支えた武蔵の知行地と菩提寺」

期 日 3月29日(日)

講 師 根岸 茂夫 氏(國學院大學教授)

・記念講演会Ⅱ 「旗本と知行所」

期 日 4月19日(日)

講 師 野本 禎司 氏(東北大学助教)

・記念講演会Ⅲ 「旗本と将軍」

期 日 4月26日(日)



講師 大石 学 氏 (東京学芸大学名誉教授)

- ・シンポジウム「旗本研究のこれまでとこれから 一埼玉から旗本を考える」

期 日 5月2日(土)

- ※ 国立歴史民俗博物館共同研究「番方旗本家に関する総合研究」と共催  
令和3年2月27日(土)にオンラインで開催

- ・展示解説

期 日 4月11日(土)、5月10日(日)

## (2) 企画展「太平記絵巻」

- ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会延期のため、開催延期

期 日 7月18日(土)～9月6日(日)

- 趣 旨 太平記絵巻は、長大な軍記物語『太平記』を全12巻の絵巻にしたもので、現存する唯一の作品である。オリンピック・パラリンピック開催に合わせて、現在、当館が所蔵する巻第一、二、六、七、十の5巻を16年ぶりに一挙公開。

開館日数 0日(予定45日)

[関連事業] ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためすべて中止

- ・連続講座

- ・ワークショップ ミニ絵巻物づくり

- ・展示解説

- ※ 上記企画展に代えて、特集展示「特別展「武蔵国の旗本」を振り返る／太平記絵巻の修理を終えて」を開催

期 日 7月18日(土)～9月6日(日)

開館日数 45日

会期中観覧者 3,385名

## (3) 企画展「新収集品展2018・2019」

期 日 令和2年10月10日(土)～11月23日(月・祝)

- 趣 旨 平成30年度及び令和元年度に、当館が収集した資料や県民から寄贈された資料の中から、本県の歴史や文化を今に伝える様々な資料を紹介した。

展示資料総数 208点

開館日数 45日

会期中観覧者 3,114名

[関連事業]

- ・歴史民俗講座「新収集品展2018・2019の展示から」

期 日 11月15日(日)

講 師 新井 浩文(当館学芸主幹)

参加者 25名

- ・民俗工芸実演「桐箆筥」

展示室での実演動画の上映

- ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、事業内容を実演から変更。

## (4) 特別展「銘仙」(芸術文化振興基金助成事業)

- ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため全期間休館

期 日 令和3年1月2日(土)～2月14日(日)

- 趣 旨 明治から大正にかけて絹織物でありながら、実用的な日常着として広まった銘仙。とりわけ新しい文化と染織技術の発展が生んだ、斬新で大胆な銘仙の様子は、多くの女性たちを魅了した。本展では、当館収蔵資料を中心に銘仙の歴史を紹介した。

展示資料総数 197点

開館日数 0日(予定39日)

[関連事業] ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためすべて中止

- ・記念講演会「銘仙今昔物語」



期 日 1月31日(日)  
講 師 木村 和恵氏(花織人・銘仙語り部)

・見どころ解説

期 日 1月9日(土)、2月11日(木・祝)

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、通常の展示解説ができないため、講堂で画像を使いながらの解説を計画していた。

(5) NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」

期 日 令和3年3月20日(土・祝)23日(火)～5月16日(日)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため予定より3日遅れの23日(火)から開始。

趣 旨 経済人として高く評価されている渋沢栄一は、教育や福祉、国際交流等の分野でも活躍し、日本の近代化に大きな役割を果たした。新一万円札の肖像やドラマの主人公になるなど注目を集めている郷土の偉人渋沢栄一を多角的に紹介した。NHKさいたま放送局との共催。

展示資料総数 約200点

開館日数 5月2日50日(令和2年度 11月9日)

会期中観覧者 1,910名(9日)

[関連事業]

・記念講演会 「現代に生きる 渋沢栄一の思想と行動」(令和3年度)

期 日 4月25日(日)

講 師 井上 潤氏(渋沢史料館館長・NHK大河ドラマ「青天を衝け」時代考証)

参加者 72名

・上映会&シンポジウム「日米人形交流と渋沢栄一～21世紀への伝言」(渋沢研究会との共催)

期 日 3月21日(日)

会 場 SKIPシティ映像ホール(川口市)

参加者 65名

・見どころ解説(令和3年度)

期 日 4月3日(土)、4月17日(土)、5月1日(土)

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、通常の展示解説ができないため、講堂で画像を使いながらの解説を行った(5月1日は感染拡大防止のため中止)

・報道内覧会・フォトセッション

期 日 3月23日(火)

報道内覧会に併せて、NHK大河ドラマ「青天を衝け」でペリー役を演じたモーリー・ロバートソンさんによるフォトセッションを実施した。

参加数 4社

・出品者、協力者向け内覧会

期 日 3月20日(土・祝)

※ 緊急事態措置に伴う臨時休館のため中止

## 5 生涯学習支援事業

### (1) 講座・講習会等の開催

#### ① 歴史民俗講座

・「博物館の考古資料はどこから来るのか?～埋蔵文化財発掘調査の話～」

期 日 9月19日(土)

講 師 書上 元博(当館主席学芸主幹)

参加者 33名

・「『新収集品展2018・2019』の展示資料から」

期 日 11月15日(日)

講師 新井 浩文 (当館学芸主幹)

参加者 25名

・「考古資料から見た北武蔵の鎌倉御家人」

期 日 12月12日 (土)

講師 水口 由紀子 (当館副館長)

参加者 61名

・「映像で見る『廻り地蔵』と『百万遍』－『巡り・廻りの民俗行事』調査－」

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止

期 日 1月23日 (土)

講師 戸邊 優美 (当館学芸員)

・「『武蔵の国造の乱』はあったか？－『日本書紀』の記述と考古学の成果から考える－」

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止

期 日 3月7日 (日)

講師 利根川 章彦 (埼玉県平和資料館)

② 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

・期 日 7月4日 (土)、11日 (土)、18日 (土)、25日 (土) 全4回

③ 民俗工芸実演

・桶作り

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止

期 日 5月9日 (土)

講師 荒井修一氏

・桐箆笥

期 日 令和3年2月6日 (土)

講師 加藤隆康氏・横溝 和夫氏

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、当館での実演は行わず、職人の技を紹介する映像を製作し、企画展「新収集品展2018・2019」の会場内で映写した。また当館ホームページで公開した。

⑤ 第10回学芸員合同研究発表会ミュージアムフォーラム

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

期 日 1月16日 (土)→3月6日 (土)→6月5日 (土)に延期したが中止

講師 安達 愛 (当館学芸員) 『クレヨンしんちゃん』の舞台はなぜ“かすかべ”なのか？－作品に描かれる首都圏郊外で暮らす家族像

西川真理子 (当館学芸員) 「仏画と説話－智光曼荼羅 (ちこうまんだら) について」

(2) 実習・研修等の受入

① 博物館学芸員実習

9月1日 (火)～4日 (金)の実習及びレポート等の課題提出

跡見学園女子大学など13大学 25名

② 博物館見学実習

日本大学など2大学 20名

③ 中学生職場体験

受入れなし

④ 高校生インターンシップ

受入れなし

⑤ 大学生インターンシップ

受入れなし

⑥ 教員向け研修の受け入れ (教育利用セミナー)

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

⑦ その他研修の受け入れ

なし

(3) 学校団体の受け入れ

① 学校連携（来館対応）

小学校16校、中学校3校（特別支援学級3）、  
高校2校、特別支援学校1校、保育園2園、その他学校関係1団体（教育相談室1）  
計25校

② 学校連携（出前授業）

藤市立北小学校など 43件 参加者 3,347名

(4) デリバリー事業等

① 県政出前講座

市民学芸員研修会（羽生市立郷土資料館）など 2件 参加者 41名

② 講座・講演講師派遣

埼玉未来大学（（公財）いきいき財団）など 16件 参加者 780名

(5) ボランティアの受け入れ

① ボランティア活動、養成講座

ア ボランティア活動

・体験ボランティア 77名登録

まが玉づくり・絞り藍染めハンカチ・組紐ストラップ・学校団体などの体験学習指導補助、スキルアップ研修等

延べ活動日数 148日 延べ活動人数 557名

・展示解説ボランティア 68名登録

常設展の展示解説を開館期間中実施した。

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、4月1日（水）～7月27日（月）は活動休止とした。

延べ活動日数 140日 延べ活動人数 379名

イ ボランティア研修

博物館ボランティア応募者を対象とした、ボランティア養成のための専門的講座及び実践的な研修を実施した。

・体験ボランティア 延べ開催日数 2日 延べ参加人数 18名

・展示解説ボランティア 開催なし

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、自主学习用にテキストを配布に切り替え。

## 6 ゆめ・体験ひろばの運営

それぞれ特色のある機能と設備を持つ3つのエリアで、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを、子どもから高齢者、初心者からリピーターまでさまざまな参加者を対象に実施している。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、今年度の通常体験メニューは7月21日（火）から、まが玉、藍染めハンカチを事前予約制にて実施し、10月3日（土）から組紐ストラップも予約制にて実施した。他のメニューは持ち帰り用として材料の販売のみを行い、実施困難なものは休止した。特別体験事業は、感染対策を講じて実施し、それでも実施困難な事業は中止した。

なお、12月24日（木）から年度内については、ゆめ・体験ひろばでの事業は再度中止となった。

(1) 「ものづくり工房」 通年メニュー

① 藍染めハンカチ 715名 ※予約制で実施（7月21日～）

② 江戸組紐ストラップ 123名 ※予約制で実施（10月3日～）

③ 絵馬 16名 ※材料の販売のみ

④ 歴史ぬりえ 8名 ※材料の販売のみ

⑤ 絵巻物	154名	※材料の販売のみ
⑥ まが玉	1,016名	※予約制で実施(7月21日～)
⑦ 浮世絵スリスリマシン	0名	※休止
⑧ 季節のミニアート	162名	※材料の販売のみ
⑨ 編布コースター	0名	※休止
⑩ コバトンペーゴマ	10名	※材料の販売のみ
合計		2,204名

(2) 「ものづくり工房」特別体験メニュー

- ① 藍の絞り染め風呂敷作り  
期日 5月14日(木)  
※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止
- ② 藍の型染めミニトートバッグ作り  
期日 6月24日(水) 延期→12月15日(火)  
期日 25日(木) ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止  
期日 12月15日(火) 定員15名から6名に変更 参加者 6名
- ③ 浪路組のキーホルダーと眼鏡紐作り  
期日 10月9日(金) 定員20名から10名に変更 参加者 10名  
期日 11月27日(金) 定員20名から10名に変更 参加者 8名
- ④ 木版浮世絵を摺る  
期日 7月16日(木) 延期→9月17日(木)  
期日 9月17日(木) 定員10名から6名に変更 参加者 5名  
期日 12月3日(木) 定員10名から6名に変更 参加者 6名
- ⑤ 夏休み子ども組紐教室  
期日 7月30日(木)、31日(金)  
※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
- ⑥ ミニ銅鏡作り  
期日 1月16日(土) 定員20名から8名に変更 参加者 6名
- ⑦ 石踏組の帯締め作り  
期日 2月12日(金)・19日(金)  
※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止
- ⑧ 型付け藍染め  
期日 2月27日(土)  
※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止

(3) 「昭和の原っぱ」イベント

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館によりすべて中止

- ① 博物館子供まつり  
兜をかぶろう  
期日 5月1日(金)～5月6日(水・休)  
射的あそび  
期日 5月5日(火・祝)
- ② 博物館春まつり  
ポン菓子作り  
期日 3月13日(土)

(4) その他の特別体験事業

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためすべて中止

- ① 十二単・小袷と男子装束の着体験  
期日 4月25日(土)  
期日 10月3日(土)  
期日 1月9日(土)

- ② 十二単・小桂の着装体験
  - 期 日 6月 6日 (土)
  - 期 日 11月28日 (土)
  - 期 日 3月 6日 (土)
- ③ 甲冑の着装体験
  - 期 日 6月20日 (土)
  - 期 日 2月13日 (土)
- ④ お囃子体験教室
  - 期 日 6月27日 (土)
  - 期 日 10月17日 (土)
- ⑤ 火おこし体験教室
  - 期 日 11月 7日 (土)
  - 期 日 12月 5日 (土)
  - 期 日 2月20日 (土)
- ⑥ ベーゴマ教室
  - 期 日 10月24日 (土)

## 7 その他の主催事業

- (1) 弥生時代復元住居見学会
  - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
  - 期 日 4月29日 (水・祝)、11月14日 (土・県民の日)
- (2) 県民の日イベント「屋台囃子の演奏」
  - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
  - 期 日 11月14日 (土)
- (3) 正月臨時開館関連事業
  - ① 「博物館でお正月」福笑い
    - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止
    - 期 日 1月2日 (土)
  - ② 「博物館でお正月」投扇興
    - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止
    - 期 日 1月3日 (日)
  - ③ 「博物館でお正月」羽根つき、絵馬パズル
    - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止
    - 期 日 1月2日 (土)～3日 (日)
  - ④ 正月イベント「はくぶつかん七福神めぐり」(常設展)
    - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止
    - 期 日 1月2日 (土)～3日 (日)
- (4) 博物館裏方探検隊
  - 原則、毎週土曜日に博物館のバックヤードを紹介していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止とした。

## 8 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会(会長)・運営等(事務局)
  - ① 総会(書面開催)、見学会・県内研修会、役員会等の開催
  - ② 「埼玉県博物館連絡協議会 加盟館園マップ」の作成(18,000部)

- ③ ホームページの管理・運営
- (2) 関東地区博物館協会の運営等 (副会長・埼玉県代表幹事館)
  - ① 総会 (書面開催)、理事会、研究会等への参加
  - ② 埼玉県内加盟館との調整
- (3) 全国歴史民俗系博物館の運営 (関東ブロック幹事館)
  - 総会 (書面開催) への参加
- (4) 日本博物館協会 (参与)
  - 全国博物館大会等への参加
- (5) 「博物館友の会」との連携・共催事業の実施
  - ① 講演会
    - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため未実施
  - ② プレミアム講座
    - ・『新収集品展 2018・2019』の展示資料から」
    - 期 日 11月18日 (水)
    - 講 師 新井 浩文 (当館学芸主幹)
    - 参加者 23名
    - ・「映像で見る『廻り地蔵』と『百万遍』－『巡り・廻りの民俗行事』調査－」
    - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館により中止
    - 期 日 1月20日 (水)
    - 講 師 戸邊 優美 (当館学芸員)
- (6) 「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会による連携事業の実施
  - 平成23年度に近隣9施設で活動を開始した「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」連絡協議会による連携事業として、下記の事業を実施した。
    - ・キーワードラリーの実施
      - 期 日 11月16日 (月)～2月11日 (木・祝)
      - 参加者 1,558名
    - ・ウォーキングツアーの実施
      - 期 日 12月5日 (土)
      - 参加者 6名
- (7) 連携事業等
  - ・埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会への参加
  - ・OKEGAWA hon プラス+におけるパネル展の実施
    - 期 日 令和3年3月24日 (水)～4月5日 (月)
    - 会 場 おけがわメイン3階 イベントスペース
  - ・首都圏の美術館・博物館共通入館券「ぐるっとパス2020」への参加
- (8) その他事業の共催
  - ① 文化財講習会 共催団体：埼玉県教育委員会、埼玉県文化財保護協会
    - 期 日 11月28日 (土)・29日 (日)
    - 参加者 79名
  - ② 文化財レスキュー・防災研修会
    - ※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
    - 共催団体：埼玉県文化財保護協会、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会
    - 期 日 2月16日 (火)

## 9 広聴広報

- (1) 広聴
  - ① 特別展・企画展等のアンケートの実施
  - ② 博物館利用者アンケートの実施



利用者アンケートの結果をフィードバック

(2) 広報

① 当館刊行物、県刊行物による広報のほか、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等による広報を積極的に行うとともに、「おうちミュージアム」、「一日一鯨」、「マイニチ・メイセン」などインターネット・SNSによる情報発信を行った。

② 「大盆栽まつり」、「大宮区民ふれあいフェア」、「北区民まつり」「芸術文化ふれあいフェア」に出展し、広報を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためイベントが中止となった。

(3) レファレンスサービス (380件)

博物館の利用に関する相談、埼玉の歴史・考古・民俗・美術に関する学習相談、情報提供、特別展・企画展・常設展の内容等照会、体験学習の指導・助言等の実施。

## 10 令和2年度印刷刊行物等一覧

(1) 『紀要』第15号	600部
(2) 展示図録等	
特別展「銘仙」図録	1,600部
図録「太平記絵巻」	1,750部
博物館ブックレット第5集「太平記絵巻を知る」	1,750部
特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」図録	2,500部
(3) 令和3年度イベントガイド	45,000部
(4) 令和2年度博物館要覧	210部
(5) 博物館だより web版 (第43～45号)	
(6) 授業に役立つ博物館活用ガイド (令和3年度版)	7,500部
(7) 無形民俗文化財調査研究事業 巡り・廻りの民俗行事調査 DVD「番匠免の大般若経祭り」	200部
(8) 展示に係る販売用グッズ (※事業用配布分として使用した数を含む)	
特別展「銘仙」オリジナルクリアファイル	1,000部
「太平記絵巻」オリジナルクリアファイル	500部
「青い目の人形」オリジナルクリアファイル	500部
マスキングテープ (渋沢翁とたまちゃん)	301部
ポストカード (楽天画渋沢栄一)	1,000部
ポストカード (渋沢書温故知新)	1,000部
(9) 展示に係る無償配布用ノベルティ	
鍾馗様カード	5,000部
特別展「銘仙」オリジナルポストカード	
(※特別展「銘仙」全期間休館のため、配布中止)	2,500部
「青い目の人形」オリジナルポストカード	5,500部

## 11 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期した。

- (1) 防災訓練 (消防、地震) 7月29日 (水)  
2月24日 (水)、25日 (木)
- (2) 自家用電気工作物電気保安検査 10月12日 (月)
- (3) 施設設備の保守業務委託、小破修繕の実施





## 展示概要等

### ■屋外展示

館庭は縄文時代と弥生時代の遺跡で、一部が県指定史跡となっている。発掘調査の成果をもとに弥生時代の竪穴住居を復元しており、その背後にある方形周溝墓は弥生時代後期の有力者の墓である。

### ■常設展示—埼玉における人々のくらしと文化—

常設展示のメインテーマは「埼玉における人々のくらしと文化」である。歴史を常に庶民の立場から見ていくという思想で貫き、庶民の力強さをダイナミックに表現することを基本姿勢としている。また、「見せる博物館」から「見る博物館」へ、「教える博物館」から「自ら学ぶ博物館」へをキャッチフレーズに、資料や研究データを通して観覧者と博物館が共に考えていこうという展示構成となっている。

#### プロローグ 大地に読む歴史

エントランスロビーの天井に届くようにそびえるのは、さいたま市大宮区の寿能泥炭層遺跡で確認された土層の模式断面である。各時代の遺物が出土状況に合わせてはめこまれ、各層の年代と各展示室で展開される展示内容とが対比できる歴史年表となっている。各展示室の入口には、この土層の断面をデザイン化した色別のパネルがあり、観覧の時間軸として利用できるようになっている。

#### 第1展示室 旧石器～弥生時代

常設展示のはじまりは、埼玉の地にいつから人類が住み始めたかを考えるコーナーである。武蔵野台地や大宮台地を中心とした遺跡や出土遺物から旧石器文化を紹介する。内陸深く入りこんだ“奥東京湾”の周辺から出土した土器・漆器・木製品などから縄文人のくらしを表現している。大陸から伝えられた稲作や新たな技術はやがて東国にも達する。コメづくりのムラが営まれ、ムラとムラをたばねる首長が成長していく弥生時代を、東日本の出土遺物の比較や方形周溝墓などから表現している。

#### 第2展示室 古墳時代

古墳時代における畿内文化の伝播や大和政権を中心とする国づくりの様子、豪族・農民の生活を紹介する。埼玉（さきたま）古墳群の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（国宝）に刻まれた文字は、国づくりの過程で北武蔵地方の豪族が大王を補佐する役割を果たしたことを物語っている。当時の武器・武具・馬具や埴輪などを通して、大和政権による国づくりに果たした東国の“杖刀人（じょうとうじん）”＝武人の役割に焦点をあてた。また、鉄製の農具や工具など新技術を摂取して開発を進めていった人々の生活を取り上げている。

#### 第3展示室 奈良～南北朝時代

「武蔵武士」を基本テーマとする。ここではまず、考古資料を用いて、律令制下における支配や人々の暮らしに関する展示を行う。平安時代に地方支配が動揺すると、各地で武装した領主層が台頭し始める。こうしたなか、県域では武蔵武士が登場する。その台頭過程や活躍ぶり、信仰や日常生活の様子などについて、工芸品・絵巻物・古文書・発掘資料などを使って紹介する。

#### 第4展示室 美術展示室

埼玉県の歴史の流れ（通史）の中では紹介しきれない優れた美術工芸品を、「博物館の中の小さな美術館」である本室で集中的に紹介する。様々な作品を通して美の世界の広がりを提示する。

## 第5展示室 室町～戦国時代

室町・戦国時代の北武蔵では、室町幕府と鎌倉府、戦国大名などの間で戦乱が繰り返された。ここでは、こうした「乱世」を生き延びた人々の姿をクローズアップする。歴史を彩る武将を輩出した古河公方足利氏・太田氏・北条氏という3家について、工芸品・古文書などを用いて紹介するとともに、この時代の戦争を特徴づけた「足軽」と呼ばれる雑兵についても展示を行う。あわせて、中世における人々のくらしと文化を取り上げる特集コーナーを設け、展示内容の充実を図っている。

## 第6展示室（展示ホール） 板碑

鎌倉から戦国時代末期にかけて盛んにつくられた板碑には、長い戦乱の中で暮らした人々の多くの願いが込められている。荒川上流で産出する緑泥石片岩を用いた武蔵の板碑は質量ともに全国一を誇り、武蔵武士の名が刻まれているものも少なくない。ここでは、それらの中から我が国最大・最小のもの、最古のものをはじめ、県内の代表的な板碑を紹介している。また、ときがわ町の慈光寺の開山塔は、室町時代初期の建築様式を伝える我が国現存最古の木造宝塔といわれており、その復原資料を展示している。

## 第7展示室 江戸時代Ⅰ

江戸幕府のお膝元となった埼玉における支配の特色を、大名・旗本などの領主とその農民支配の在り方、交通・宗教・文化などの制度を通して紹介する。領主については、川越・忍（行田）・岩槻・岡部に配置された大名と旗本に関する資料や城の模型を中心に展示している。農民の支配については、年貢制度や、日常生活の規制などを高札や古文書により表現している。また、中山道や日光道中、利根川に設けられた関所の様子、幕府の寺院統制やキリシタン禁制、学芸、科学、民間信仰などを取り上げている。

## 第8展示室 江戸時代Ⅱ

江戸時代の埼玉は、河川改修や用水路等の整備などにより、耕作地が増えて米の収穫量が増大した。そして、河川交通の発達とともに、各地で地場産業が盛んとなり、商品作物も作られるようになった。こうした様子は見沼代用水構造図や高瀬船模型・藍玉・紅餅・茶甕・運賃定書などを通して紹介している。また、幕藩体制が大きくゆらぎはじめる幕末の様子は、武州一揆や安政の大地震と水害・黒船来航などの資料によって紹介している。

## 第9展示室 明治時代～現代

明治期の埼玉は、政府の富国強兵の方針のもとでの殖産興業政策により、地場産業の近代化と産業基盤の整備を推進した。大正・昭和戦前期になると、大衆運動が盛り上がりを見せたが、昭和恐慌を契機にやがて長い戦争へと突入していき、県民・県土は疲弊した。敗戦後の埼玉は、産業・経済の復興をなしとげ、内陸型の工業県として目覚ましく発展した。ここでは、近現代埼玉の歩みを行政・産業・経済を中心に紹介するとともに、昭和30年代の暮らし、地場産業や郷土の発展に貢献した埼玉の人物をより詳細に取り上げている。

## 第10展示室 民俗展示室

民俗展示室は平成29年2月に全面的な展示替えを行い、「水とくらし」というテーマで埼玉県における「水にまつわる民俗」を紹介している。展示は、「漁の知恵」「水と技の出会い」「水の力」「水と日々のくらし」の4部構成で、川や湖沼での漁業をはじめ、水に関する産業や行事、祭りに関する資料などを紹介している。また、ミニテーマを設けて展示替えを行うコラム展示や、往時の農家の雰囲気再現した「農家のいろり」コーナーもある。

## ■特別展示室

企画テーマに沿った特別展などを開催する展示室である。年数回の特別展・企画展を開催し、毎回好評を博している。企画の内容は、より広い視点から埼玉の歴史と文化を比較・理解できるよう、県内だけではなく、関東あるいは全国を対象を広げてテーマを設定している。

## ■季節展示室

この展示室は、常設展示室と特別展示室を結ぶ場所に位置している。京壁と野外の竹林・石灯籠とが調和して安らぎの場となっている。また、小さな特集展示や特別展のサブ展示室としても活用される。

## ■ゆめ・体験ひろば

「ゆめ・体験ひろば」は、世代間交流ができる体験学習施設で、それぞれに特色ある機能と設備を持つ3つのエリアで構成されており、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様なプログラムを提供している。

### 第1エリア 自由自在座

入館者が多様なハンズオン展示装置を自由に選択し、自在に楽しむ体験展示として、浮世絵版画の工程を体験する「浮世絵スリスリマシン」、歌舞伎などで用いられる擬音楽器を使って楽しむ「日本の音で遊ぼう」、江戸時代の提灯や行灯をのぞき窓から覗く「灯りの今昔」、ヒモを引いて目や口を動かし複雑な仕掛けを理解する「人形芝居」、石臼で米などを挽いて粉にする体験ができる「石臼を使ってみよう」などを設置している。

また、「昔のくらしと道具」のブースは、昭和30年代の農村の住居・町の住居の食卓や道具などの展示を見ながら、昔の生活道具を学べるコーナーとなっている。

さらに、「学び文庫」として調べ学習のための参考図書をゆったり閲覧することができる。

### 第2エリア ものづくり工房

「ものづくり工房」では、郷土に伝わる伝統文化のわざところを、体験を通して学ぶことができ、藍染めや江戸組紐といった伝統工芸や地場産業をテーマとしたものづくりメニューを、常時数種類体験することができる。通常体験メニューとは別に、藍染めストールや江戸組紐帯締めなど、成人対象の本格的な特別体験メニューも提供している。

### 第3エリア 昭和の原っぱ

屋外広場に、木製電柱や土管、ホーロー看板やスバル360などのディスプレイにより、昭和30～40年代のロケーションを再現したエリアが「昭和の原っぱ」である。

ここでは、ベーゴマやメンコ、フラフープといった昔懐かしい遊び体験コーナーや駄菓子屋を常設するとともに、季節に応じて、「射的遊び」や「ポン菓子作り実演」などのノスタルジックイベントも開催する。

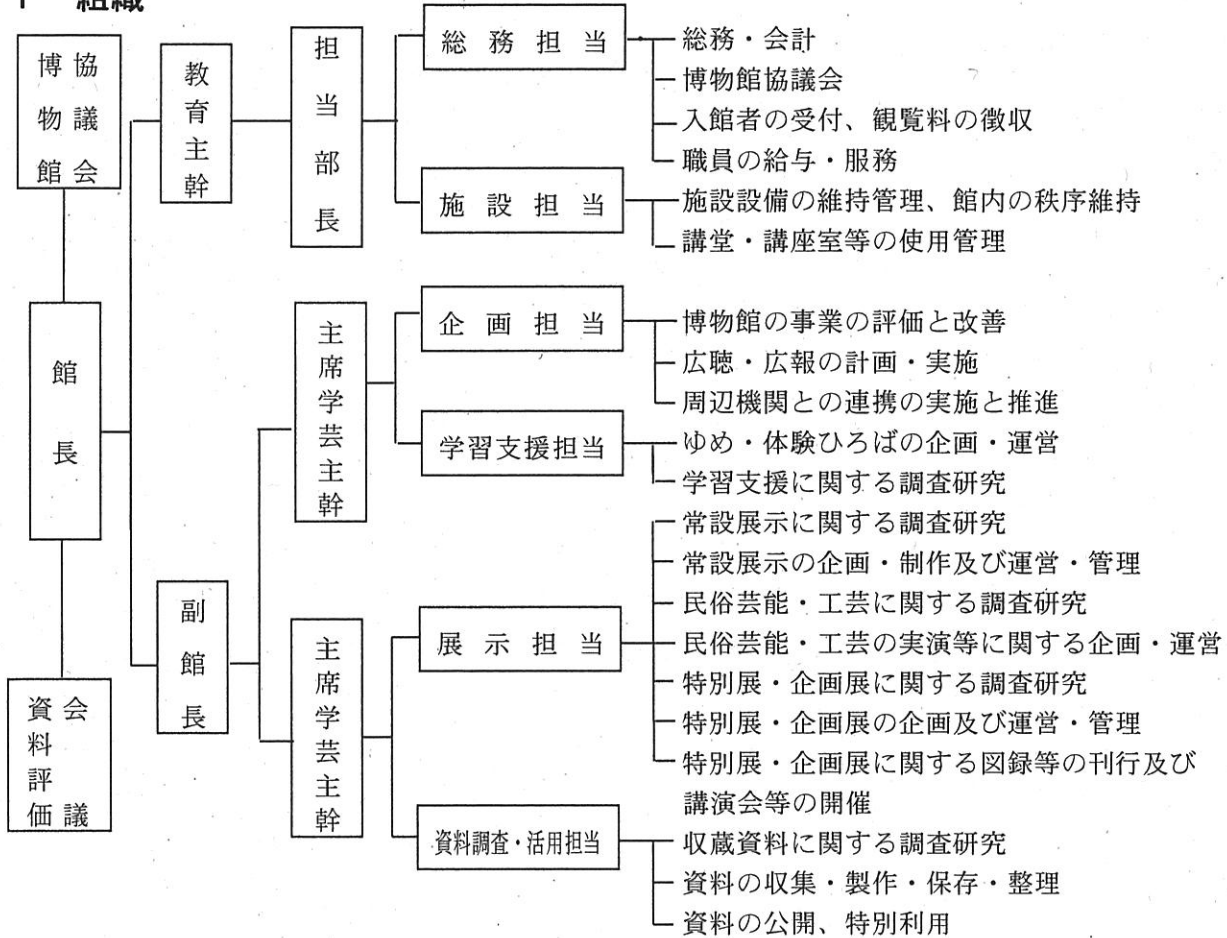
人それぞれに懐かしくもあり、新鮮でもある「昭和の原っぱ」は、かつてガキ大将で鳴らした団塊の世代の大人たちと、IT世代の現代っ子たちが、遊び文化の継承を通じて世代間交流ができる空間を提供している。

このように、特色ある3つのエリアから成る「ゆめ・体験ひろば」では、入館者はもとより、専門分野を担う博物館クルーや体験ボランティアなどが運営のサポートにあたることにより、「だれもが主役になれる博物館」づくりを進めている。

また、各施設は、ユニバーサルデザインに基づき、「誰にもやさしい博物館」として、安全に楽しく見学や体験ができるようになっている。

# 組織及び職員構成 (令和3年4月1日現在)

## 1 組織



## 2 職員名簿

職名	氏名
館長	村田 章人
◎総務、施設担当	
教育主幹	押江 成行
担当部長	石村 卓也
[総務担当]	
主任	堀越 正規
主事	上野 翔子
主事	藤本 貴能
嘱託(会計年度)	蝦名 博稔
[施設担当]	
主任	佐藤 美絵
主任	大野 樹弘
主任	若林 和弘
◎企画、学習支援、展示、資料調査・活用担当	
副館長	水口 由紀子
○企画、学習支援担当	
主席学芸主幹	岡本 健一
[企画担当]	
担当部長	長谷川 晋
学芸員	倉澤 麻由子
主事	高橋 優美

職名	氏名
[学習支援担当]	
学芸主幹	池田 伸子
担当課長	松木 綾子
担当課長	木村 真輔
学芸員	安達 愛翠
学芸員	濱田 翠
学芸員	黒田 千尋
学芸員	川又 奈津記
○展示、資料調査・活用担当	
主席学芸主幹	加藤 かな子
[展示担当]	
学芸主幹	佐藤 康二
学芸員	根ヶ山 泰史
学芸員	堀口 智彦
学芸員	西川 真理子
主幹(兼)	杉山 正司
学芸員	町田 未海
学芸員	井上 夏美
学芸員	佐藤 水輝
学芸員	温 基
[資料調査・活用担当]	
主任学芸員	佐藤 美弥
主幹(兼)	田中 正夫
学芸員	佐藤 香里
学芸員	鈴木 史乃
学芸員	津久井 彩乃

### 3 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員名簿

任期 令和2年5月26日から令和4年5月25日まで

(選出区分別 敬称略 職名等は令和3年7月1日現在)

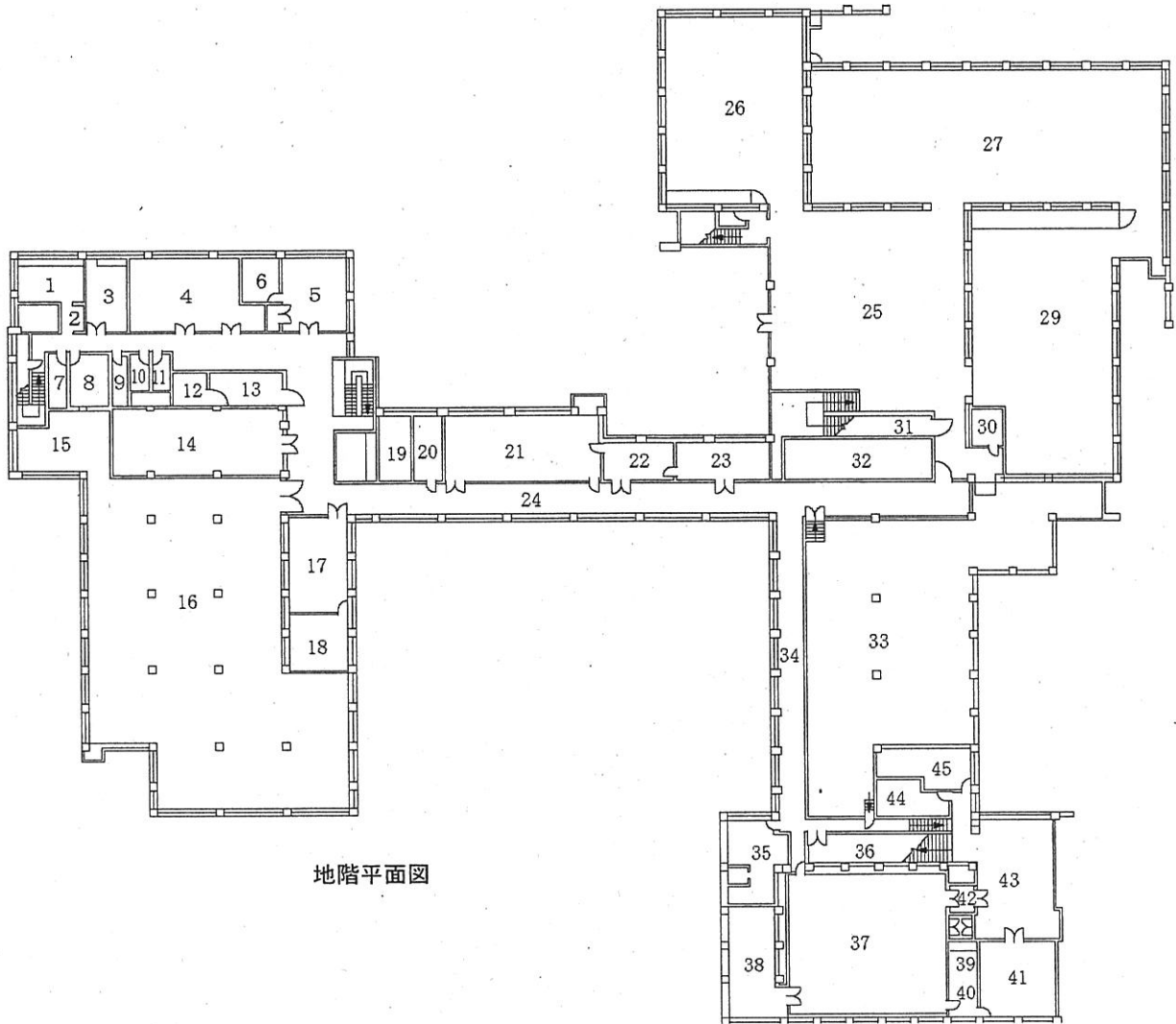
選出 区分	ふりがな 氏名	職名等
学校教育 関係者	あかみね ひろし 赤嶺 寛	県立所沢西高等学校長
	ときやま くみこ 時山 久美子	元小学校長（前鳩山町立今宿小学校長）
	なかざと なおき 中里 尚樹	県立東松山特別支援学校長
社会教育 関係者	おおしか よしお 大鹿 良夫	一般社団法人埼玉県子ども会連合会会長
	おおすぎ なおこ 大杉 尚子	埼玉県地域婦人会連合会副理事
家庭教育 関係者	おがわ みよこ 小川 三代子	埼玉県家庭教育振興協議会理事
	たぐま ようこ 田熊 陽子	さいたま市立泰平小学校 学校地域連携コーディネーター
学 識 経 験 者	あさくら なおみ 浅倉 直美	駒澤大学文学部准教授 埼玉県文化財保護審議会委員
	あさくら はるみ 朝倉 はるみ	淑徳大学経営学部教授
	いのうえ ともかつ 井上 智勝	埼玉大学大学院人文社会科学部研究科教授
	くらかみ のぶお 倉上 伸夫	さいたま市大宮区高鼻町1丁目自治会長
	さの ちえ 佐野 千絵	(独) 国立文化財機構 東京文化財研究所 名誉研究員
	しまの もりお 島野 守夫	テレビ埼玉報道制作局次長
	せきかわ あさこ 関川 亜佐子	レンタル銘仙ショップ経営・秩父銘仙織元 元秩父市地域おこし協力隊
	ねぎし しげお 根岸 茂夫	國學院大學名誉教授 埼玉県文化財保護審議会委員
	はすだ ゆきお 荷田 幸雄	元地方公務員
まるい あきひろ 丸井 章弘	会社役員	



# 施設設備

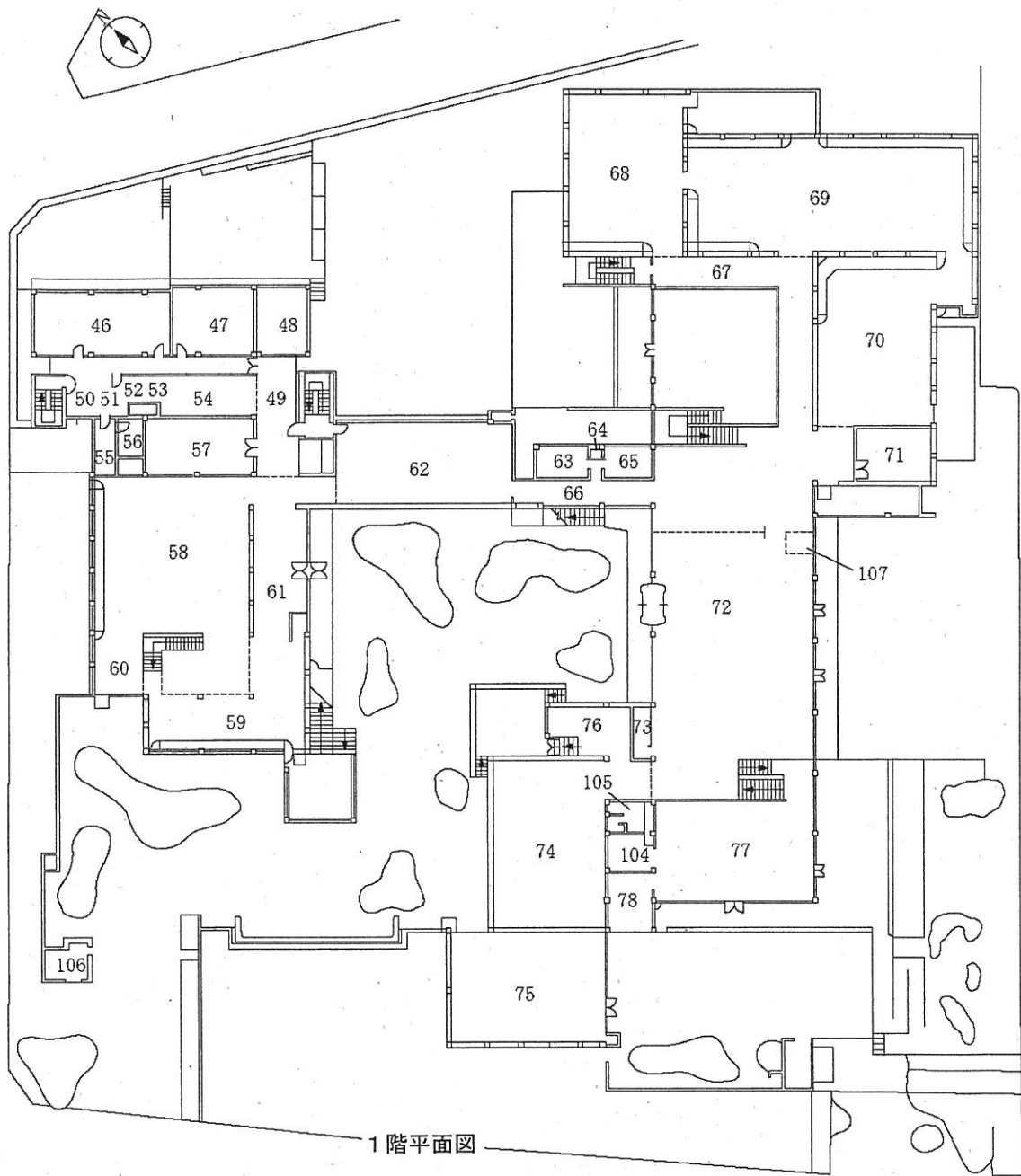
敷地面積 12,753.71m<sup>2</sup> 延床面積 11,363.93m<sup>2</sup>

## 各室配置図及び各室面積表



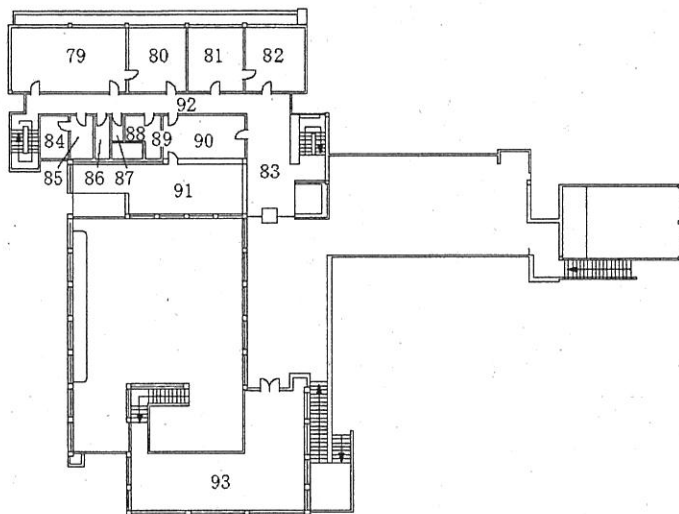
地階平面図

番号	室名	面積m <sup>2</sup>	番号	室名	面積m <sup>2</sup>	番号	室名	面積m <sup>2</sup>
1	休養室	35.84	16	収蔵庫 2	604.80	32	倉庫 1	47.52
2	湯沸室	7.50	17	図書室 2	52.80	33	空調機械室 1	431.44
3	ボランティアルーム	30.24	18	炭酸ガスポンプ室	33.60	34	廊下	94.32
4	資料保存室	79.20	19	消火水槽	21.60	35	旧食堂事務室	43.92
5	スタジオ	40.32	20	消火ポンプ室	14.40	36	旧食堂倉庫	58.32
6	暗室	17.28	21	変電室	86.40	37	講堂	227.52
7	浴室	9.00	22	中央監視室	23.76	38	講堂準備室	51.84
8	控室	11.70	23	発電機室	32.40	39	音響調整室	10.56
9	男子便所	9.00	24	廊下	373.72	40	湯沸室	18.48
10	女子便所	6.12	25	常設展示室 6	367.74	41	講座室	60.48
11	掃除用具室	6.12	26	常設展示室 7	237.60	42	講堂前室	13.20
12	殺虫消毒室 1	10.26	27	常設展示室 8、9	450.72	43	講堂前口ビー	94.56
13	殺虫消毒室 2	28.50	29	常設展示室 10	320.64	44	男子便所	20.12
14	空調機械室 2	94.80	30	常設展示準備室 2	6.00	45	女子便所	28.60
15	収蔵庫 3	46.50	31	常設展示準備室 3	16.50			

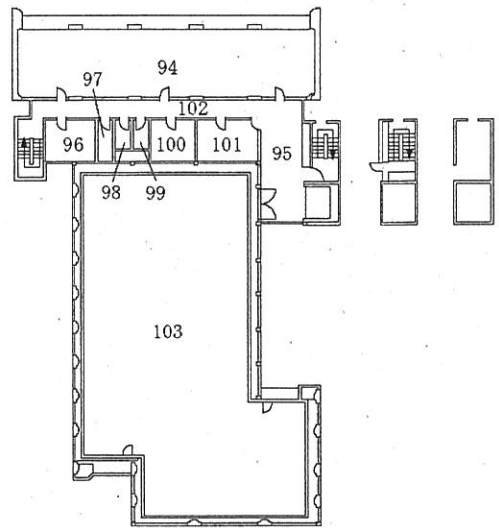


1階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
46	管理事務室	108.00	59	特別展示室1	237.60	71	常設展示準備室1	54.06
47	車庫	64.60	60	休憩室	43.20	72	エントランスロビー	712.80
48	荷扱室	43.20	61	特別展示室エントランスビ-	116.64	73	コインロッカー室	14.40
49	荷解広間	63.36	62	季節展示室	195.84	74	自由自在座	207.36
50	管理棟エントランスビ-	26.88	63	客用男子便所	14.40	75	ものづくり工房	237.60
51	男子便所	9.00	64	みんなのトイレ	7.02	76	ゆめ・体験ひろば準備室	54.48
52	女子便所	6.12	65	客用女子便所	17.18	77	休憩コーナー	207.60
53	湯沸室	3.42	66	廊下	52.48	78	幼児コーナー	37.08
54	荷解梱包室	53.55	67	ギャラリー	144.96	104	自動販売機コーナー	18.47
55	警備員室	16.80	68	常設展示室4、5	237.60	105	倉庫2	8.82
56	救護室	13.20	69	常設展示室2、3	427.68	106	旧正門警備員室	17.55
57	特別展示準備室	72.00	70	常設展示室1	273.18	107	インフォメーション	-
58	特別展示室2	324.00						



2階平面図



3階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	延床面積	11,363.93 ㎡
79	会議室	86.40	92	廊下	66.24	内訳	
80	資料熟覧室	43.20	93	特別展示室3	151.20	・展示部門	4,984.38 ㎡
81	応接室	43.20	94	学芸事務室	226.80	展示室	(3,711.96 ㎡)
82	館長室	43.20	95	ロビー	51.84	その他	(1,272.42 ㎡)
83	ロビー	51.84	96	副館長室	26.88	・収蔵部門	1,416.90 ㎡
84	電話交換機室	16.53	97	男子便所	9.00	・管理部門	4,962.65 ㎡
85	男子更衣室	10.56	98	女子便所	6.12	その他	
86	男子便所	9.00	99	湯沸室	3.42	建築面積	4,529.57 ㎡
87	女子便所	6.12	100	調査研究室2	21.12	内訳	
88	湯沸室	3.42	101	調査研究室1	26.88	・本館	4,512.02㎡
89	女子更衣室	10.32	102	廊下	66.24	・旧正門警備員室	17.55㎡
90	図書室	38.40	103	収蔵庫1	712.80		
91	書庫	94.20					



## 資料

### 1. 年度別当初予算一覧

単位：千円

年 度	管理運営費	展示事業費	博物館 資料収集 管理費	ゆめ・体験 ひろば 事業費	常設展示室 展示設備 更新事業費	計
平成21	23,319	26,627	6,200	4,292	—	60,438
22	22,633	27,941	5,830	4,135	—	60,539
23	23,194	36,829	5,436	4,456	—	69,915
24	24,395	33,326	8,646	4,268	—	70,635
25	20,647	41,305	6,233	3,991	—	72,176
26	22,855	39,144	6,327	4,032	—	72,358
27	19,891	50,201	5,881	4,127	—	80,100
28	23,303	37,956	5,886	4,215	—	71,360
29	21,193	43,568	5,888	4,281	—	74,930
30	21,055	37,191	5,752	4,331	5,500	73,829
31 令和元	25,072	38,914	5,949	4,461	5,552	79,948
2	21,954	48,307	4,459	6,241	5,603	86,564
3	25,197	48,802	4,250	5,921	5,332	89,502

### 2 入館者数の推移

年 度	開館日数	利用人員	1日平均 利用者数	備 考
平成21	184日	90,477人	492	9月14日～2月15日工事休館
22	208日	93,138人	448	11月15日～3月16日休館
23	305日	133,160人	437	
24	310日	126,886人	409	
25	311日	119,953人	386	平成25年7月1日から高齢者の観覧料減免措置廃止
26	310日	135,221人	436	
27	308日	146,203人	475	
28	310日	138,209人	446	
29	309日	142,566人	461	
30	315日	119,103人	378	
31 令和元	284日	114,175人	402	令和元年10月12日～13日台風のため休館 令和2年2月29日～3月31日感染拡大防止のため休館
2	186日	27,657人	149	令和2年4月1日～5月24日感染拡大防止のため休館 令和2年12月24日～3月21日感染拡大防止のため休館

### 3 所蔵資料数(令和3年3月31日現在) 126,281点(+13点)

絵画	(+1点) 1,504点	工芸	1,285点	彫刻	36点	書跡	181点
歴史	(+12点) 48,656点	民俗	68,563点	考古	6,024点	模型	32点

4 特別展・企画展一覧

年度	春	夏	秋	冬
昭和 46			(開館記念特別展) 埼玉百年史	
47		縄文の美となぞ	アイヌ文化展	関東の鉄仏
48		寺内萬次郎展	台湾の民具	昔の旅
49		足軽胴と陣笠	東北の美術	小村雪岱展
50	原始の世界	埼玉景勝30選展	斉藤与里展	
51	永田二郎展	埼玉の張り子展	さいたまの肖像展	近代埼玉の書
52	中野四郎作品展		戦国武将展	はにわ展
53	埼玉のやきもの	近世埼玉の文人展	奥原晴湖展	
54	弁当箱にみる用と美		絵馬展	胎内納入品をもつ仏像
55	大久保喜一展		文化財保護法施行30周年記念埼玉 の指定文化財展-美術工芸品	板碑展
56		編む	江戸のよそおい	木と漆の原始工芸 -寿能泥炭層遺跡出土品展-
57			古代東国の甃	
58			(新装開館記念特別展) 武蔵武士	荒川の漁具・漁・祖おやの譜録
59	浮世絵	埼玉・岩手文化交流展 北武蔵 杖刀人とその時代	埼玉・岩手文化交流展 縄文の風景-大地と呪術-	江戸の風俗 -絵筆が語る町人文化-
60	宿場	激動の昭和	(外) メキシコの民芸 -太陽と神々の匠たち-	かお
61	古代の祭祀	(外) 古代メキシコ・オルメカ 文明展	海上之邦おきなわ	武蔵ゆかりの武器・武具
62	秩父-繭そして信仰-	収蔵品展	(外) 埼玉県・山西省友好県省 締結5周年記念-山西省文物展	遊びとおもちゃ
63	日本のあけぼの	収蔵品展	さいたまの円空	古墳-かざり大刀の世界- 世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆-その美と歴史-
平成 元	世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆-その美と歴史- 比企-丘陵に生きた人々の暮らし と文化-	収蔵品展	(外) クイーンズランド文化展 -姉妹州の4万年の歴史-	酒の文化史
2	さいたまの海 -縄文人からの伝言-	収蔵品展	南蛮の美術 -異国にあこがれた武将たち-	お金百態-寄託資料 埼玉銀行コ レクションを中心に-
3	音のかたち-日本の音を探る-	収蔵品展	(開館20周年記念展) さいたまの名宝 国宝・重要文化 財	喫茶の考古学-茶の湯再発見- かたどられた祈り-木・紙・藁の フォークロア
4	かたどられた祈り-木・紙・藁の フォークロア	江戸のからくり夢空間-近代科学 事始	はなのいろはうつりにけり な・・・歌仙絵の世界	鯨絵-鯨が踊れば世も動く- つば・かめ・すりばち-中世のや きものと暮らし
5	つば・かめ・すりばち-中世のや きものと暮らし	河童VS天狗 -人と妖怪の交流史-	甃る光彩-関東の出土金銅仏-	奉納された道中アルバム -絵馬にみる寺社参り-
6	相撲-むかしきけちゝぶ殿さへす まふとり-	子育ての原風景 -カミの子からムラの子へ-	検証! 関東の弥生文化 -一粒の米が変えた暮らし-	最新出土品展 さいたま地中からのメッセージ
7	観・天・望・気 -お天気の世界-	最新出土品展	古代東国の渡米文化	美の匠たち-日本刀をめぐる“わ ざ”の世界-
8	美の匠たち-日本刀をめぐる“わ ざ”の世界-	最新出土品展	太平記絵巻の世界	歴史を歩く~埼玉の札所めぐり~

年度	春	夏	秋	冬
9	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～	最新出土品展	女帝明正天皇と将軍家光～松平信綱とその時代～	人形と張り子 桜花爛漫
10	桜花爛漫	最新出土品展	女性にはわーその装いとしぐさー	さいたまの鉄道
11	さいたまの鉄道	さいたま最新出土品展 '99	アイヌの四季と生活 ー十勝アイヌと絵師・平沢屏山ー	さいたまの名宝シリーズ2 ゆ～お風呂の文化史～
12	ゆ～お風呂の文化史～		ー象がゆくー将軍吉宗と宮廷 雅	発掘された日本列島2000・さいたま出土品展
13		発掘調査速報展	(開館30周年記念展) 埼玉の名宝シリーズ3ー神楽の風景ー	めざせ日本の近代化 ～日本の産業育てた渋沢栄一～
14	KEMARIー蹴鞠ー	発掘調査速報展	開設四百年 中山道ー武州往来ー	
15		埼玉の名宝シリーズ4 めざめろ 古代ー新指定の考古資料ー	平林寺	銀座復興絵巻
16	銀座復興絵巻	埼玉県発掘調査速報2004	国宝太刀・短刀と太平記絵巻	羽子板の美とわざ 年中行事絵巻
17	年中行事絵巻	あの遺跡この遺物ー埼玉発掘50年史ー	刻まれた鼓動 ～歓喜院聖天堂の彫刻建築～	
18	芸能絵巻～舞い踊り囃す～	天下をまわって1300年 お金めぐる 社会史	由来 伝来 名刀の一千年	祈りの風景 埼玉の絵馬
19	祈りの風景 埼玉の絵馬	博物館発→ちいさな旅 ー埼玉遊覧案内ー	お伊勢さんと武蔵	日本の色彩～藍・紅・紫～
20		埼玉サッカー100年	名もなき至宝ーうけつがれし重要 有形民俗文化財ー	誕生 武蔵武士
21		いただきます～食の文化史～	出張博物館 in 深谷	雑兵物語の世界
22	雑兵物語の世界	ヒーロー参上	仏教伝来 埼玉の古代寺院	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道
23	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道	あそび漫遊	(開館40周年記念展) 円空 ところを刻む ー埼玉の諸像を中心にー	大名と藩-天下泰平の立役者たち-
24	大名と藩 -天下泰平の立役者たち-	にほん美術夏期学校	職人のわざとカタ ー商品の誕生ー	埼玉歴史街道Ⅰ -『新編武蔵風土記稿』の世界-
25	発掘された木の道具	絵で語る埼玉の民話 -池原昭治 童絵の世界-	狩野派と橋本雅邦 -そして近代日本画へ	圏央道の遺跡 ～埼玉の発掘調査 西から東から～
26	渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館 -Attic Museum-	につぼん歴史街道 江戸の街道(みち) ～絵図でだどる宿場と関所～	甦る鉄剣	埼玉の自由民権
27	氷川神社と大宮公園	戦国図鑑 ーCool Basara Styleー	慈光寺 国宝 法華経一品経を守り伝える 古刹	
28	蔵出し資料 ー館有コレクションの優品ー	高麗郡1300年 ー物と語りー	徳川家康 ー語り継がれる天下人ー	祝いの民俗 ーハレの造形ー
29	縄文の空間 ー暮らしと願いー	くらべる古美術 ー見て考える美術のみみつー	上杉家の名刀と三十五腰	明治天皇と氷川神社 ー行幸の軌跡ー
30	田んぼ ー埼玉、人と水の風景ー	古文書 大公開! ーみる・よむ・しらべる埼玉ー	ダムと変わる! 私たちの暮らし!	埼玉の官衙 ー律令時代の“お役所”ー
31 令和元	東国の地獄極楽	北沢楽天と時事漫画	子ども/おもちゃの博覧会	縄文時代のたべもの事情
2	武蔵国の旗本 (感染拡大防止のため全日程休館)	太平記絵巻 (感染拡大防止のため開催延期)	新収集品展2018・2019	銘仙 (感染拡大防止のため全日程休館)
3	青天を衝け ～渋沢栄一のまなざし～	太平記絵巻 ー描かれた武士の世界ー	埼玉考古50選	埼玉武術英名録 共催展 昌国寺

# 利用案内

## ◆展示室等の観覧について

### 1 開館時間

午前9時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

※ 7月1日から8月31日までは、午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）延長。

### 2 休館日

(1) 月曜日（ただし祝日及び振替休日、11月1日、11月22日、1月3日は開館）

(2) 年末年始（12月29日から1月1日まで）

(3) 館内消毒及び展示替えのため休館（6月7日から6月14日まで及び9月13日から9月14日まで）

### 3 展示解説

(1) 各展示室では、ボランティアが御希望に応じて解説・案内します。

(2) 団体見学の場合は、10日前までにお申し込みください。

### 4 観覧料

(1) 常設展示： 一般 300円（200円） ※（ ）内は団体（20人以上）料金  
                  高校・大学生 150円（100円）

(2) 特別展・企画展開催期間中は別に定めます。

(3) 次の方は無料で観覧できます。

① 義務教育修了前（中学生以下）の方

② 障害者の方（身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている方）

③ 上記障害者の介護の方（障害者一人につき一人）

※ 65歳以上の方の観覧料につきましては、条例改正により、平成25年7月1日から一般の方と同額になりました。

### 5 観覧料の免除とその手続き

(1) 次の場合は、「観覧料等減額（免除）申請書」に、実施計画書等を添付のうえ、観覧日の10日前までに提出していただくことにより観覧料を免除します。

① 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する幼稚園、保育所園、小・中学生の引率の方

② 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する高校・大学生・各種学校等の生徒とその引率の方

③ 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、他の地方公共団体が開催する歴史と民俗の博物館の資料に関する事業（講演会、講習会、研究会等）を企画した主催（引率）の方

④ 埼玉県又は埼玉県教育委員会が開催する全国会議・ブロック会議・研修会等に参加し、会議又は研修会の日程の一環として観覧する方

(2) 次の場合は、視察依頼書を提出していただくことにより観覧料を免除します。

① 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、地方公共団体又は市町村等関係機関関係者で、歴史と民俗の博物館の事業及び施設設備の視察を目的とした観覧

(3) 次の場合は、インフォメーションにお申し出いただくことにより観覧料を免除します。

- ① 教育課程に基づく学習活動のための下見をする方
- ② 歴史と民俗の博物館に資料を寄贈、寄託している方
- ③ 歴史と民俗の博物館が発行する優待券、招待券、ボランティア登録証をお持ちの方

## 6 問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 総務担当  
 電話 048-641-0890 FAX 048-640-1964

## ◆講堂・講座室について

### 1 施設の概要

- (1) 講堂 面積 227.52㎡ 定員81人 (収容人員 162人)
- (2) 講座室 面積 60.48㎡ 定員16人 (収容人員 30人)

※ 令和2年度及び令和3年度については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため実際の収容人員とは異なる定員としています。

### 2 利用料金

種類	項目 (貸出単位)	金額
施設 使用料	講堂 (1時間)	630円
	講座室 (1時間)	160円
附属設備 使用料	音響設備 (1回)	110円
	ビデオプロジェクター (1回)	840円

- (1) 附属設備については、利用開始からその日の利用終了までで1回とします。
- (2) 使用料が減額又は免除になる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

### 3 注意事項

- (1) 次の場合、施設の御利用はできませんので、御了承ください。
  - ① 博物館の管理上支障があると認められるとき。
  - ② 公共の福祉を阻害するおそれがあると認められるとき。
  - ③ その他博物館の設置の目的に反すると認められるとき。
- (2) 施設利用を許可するにあたり、必要がある場合は、条件を付したり、制限を加えたりすることがあります。
- (3) 施設を利用できるのは、開館日の開館時間内のみです。
- (4) 利用時間には、準備及び片付けの時間も含まれます。
- (5) 利用を終了したときは、施設の状態を速やかに利用前の状態に戻してください。  
 施設や設備を損傷したり、備品等を紛失したり損傷したりしたときは、それを修理し、損害を賠償していただきます。
- (6) 附属設備、長机、予備椅子を利用したい場合は、事前に申し出てください。
- (7) 研究会等で図録等を販売しようとするとき、又は特別の設備等を利用しようとするときは、事前に申し出てください。
- (8) 講堂・講座室は地下1階にあり、エレベーター、スロープ等はありません。

階段昇降機が設置されておりますので、車椅子で御利用になる場合は、職員が操作いたします。遠慮なくお申し出ください。

(9) 展示室は有料となりますので、展示室を御利用の際は観覧券をお買い求めください。

#### 4 利用申込み

- (1) 原則として、利用日の属する月の3か月前の初日（その日が休館日である場合にはその翌日）から、利用日の7日前（その日が休館日である場合にはその前日）までに、埼玉県立歴史と民俗の博物館事務室まで「施設等利用（変更）許可申請書」を提出してください。空き状況は電話で確認することができます。
- (2) 予約及び申請の受付時間は、開館日の開館時間内のみです。
- (3) 申請に基づき、「施設等利用（変更）許可書」及び使用料の「納入通知書」を発行します。
- (4) 使用料については、「納入通知書」により、最寄りの金融機関等で納入期限までに納入してください。

#### 5 申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 施設担当  
電話 048-641-0890 FAX 048-640-1964

#### ◆資料の写真原板使用及び資料写真撮影・熟覧について

当館の所蔵資料で写真原板があるものについては有料で御利用いただけます。  
また、保存上などで問題がない資料については、写真撮影・熟覧をお取り扱いいたします。

#### 申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当  
電話 048-645-8171 FAX 048-640-1964

#### ◆資料の寄贈受入について

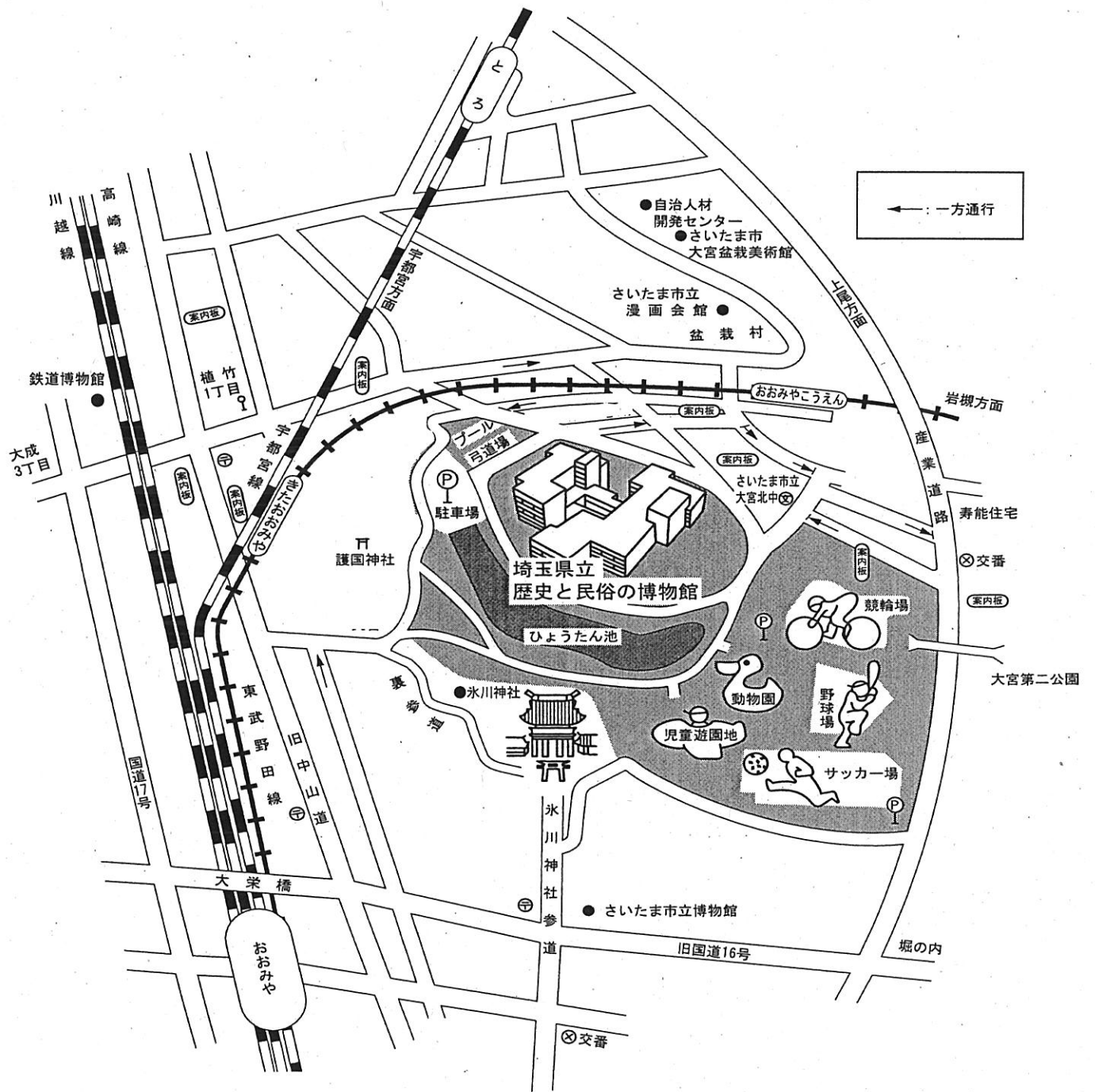
資料の寄贈希望がある場合は、資料調査・活用担当に御一報ください。事前調査をしたのち、書類手続きを行います。その後、資料評価会議に諮り、審議したのち正式に受け入れます。

※ 当館の資料受入基準から外れるもの、すでに同様の資料が収蔵されている場合などは、事前調査をすることなくお断りする場合がありますので御了承ください。

#### 申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当  
電話 048-645-8171 FAX 048-640-1964





◆交通案内

東武アーバンパークライン<野田線> 大宮公園駅下車 徒歩5分  
 JR宇都宮線 土呂駅下車 徒歩18分



【MEMO】





埼玉県のマスコット コバトン

令和3年度 埼玉県立歴史と民俗の博物館要覧（第16号）  
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地  
TEL 048-645-8171（学芸）  
TEL 048-641-0890（総務・施設）  
FAX 048-640-1964  
ホームページURL <https://saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

発行：令和3年7月